



23 TOKYO

区政会館だより

No.331

平成29年10月



福井県坂井市の高校生が「極」のレプリカを濱野区長に贈呈しながわ水族館で

品

川

区

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

全国につながる
連携の輪

シビックプライドで思いを一つに

練

馬

区



練馬まつりで披露された勇壮な
上田市の陣太鼓

37年に渡る交流で絆はより強固に

全国につながる
連携の輪 品川区



坂井市で開かれた全国シティプロモーションサミット

シビックプライドで思いを一つに

品川区は、特別区長会の特別区全国連携プロジェクトをきっかけに福井県坂井市と交流を進めています。元々、両自治体の接点はなかったのですが、お互いの共通点が多く、交流が始まりました。坂井市は昨年、品川区の戸越銀座にアンテナショップをオープン。今年は品川区から坂井市への交流ツアーも行われました。二つの自治体をつなぐキーワードは、自分のまちに誇りを持つ「シビックプライド」です。

東京初開催のサミットで情報発信

プレミアム越前がに「極」がデビュー

坂井市は、名勝東尋坊や日本最古の天守閣・丸岡城などが有名で、豊かな自然環境や輝かしい歴史・伝統文化を背景に、福井県を代表する観光資源や食に恵まれた自治体です。

福井県坂井市と品川区が交流を始めたのは、2015（平成27）年で、特別区長会が特別区全国連携プロジェクトをスタートし、全国の自治体に呼び掛けたことがきっかけでした。坂井市は、都心にありながら、お互いのまちに共通点が多い品川区にラブコールを送りました。

た。例えば、お互いに海や港があること、水族館を持つていること、品川区には大井競馬場、坂井市には競艇場があることなどが品川区に似ています。

2015（平成27）年11月には、しながわ水族館で、「日本一幸福なまちからの贈り物 極・黄金がにがやつてきた展」が開催されました。

11月21日に行われたプレミアム越前がに「極」の東京デビューイベントでは、坂井市の高校生6人がしながわ水族館を訪れ、坂井市をPR。濱野健品川区長に「極」のレプリカを贈呈しました。

また、北陸の冬の味覚である越前



戸越銀座にアンテナ ショップ開店

下町風情や人情が残る戸越銀座商店街に2016（平成28）年8月、坂井市のアンテナショップが開店しました。

全国のアンテナショップは都心に集中していますが、品川区の戸越銀座商店街を選んだ理由は、テレビ番

かに汁が来場者にふるまわれ、訪れていた親子連れなどで賑わいました。



交流ツアーで品川音頭

組に頻繁に取り上げられるなど全国的な知名度があることに加え、「困ったときはお互いさま」とばかりに何かと世話を焼いていただくなど、下町独特の人情味を感じたからだと言います。

アンテナショップは、坂井市産の新鮮野菜や魚介類、ブランド米など食を通じた魅力発信はもとより、観光情報や歴史・伝統文化の紹介、修学旅行生の受け入れなど、さまざまな情報発信と市民交流の拠点になっています。

今年8月6日から8日、品川区主催で、「品川区&坂井市交流ツアー」が行われました。

区民が坂井市を訪れ、ご当地グルメを楽しみ、さかい夏まつりに参加して、坂井市の市民と交流を深める企画です。初開催にもかかわらず、定員40人に182人も応募がありました。

参加した40人は、夏まつりのステージで、夏の甲子園に臨む坂井高校野球部を応援するプラカードを掲げ、会場から大きな拍手を浴びました。また、会場ではさかい民謡愛好会のメンバー15人と一緒に「品川音頭」と「坂井町ふるさと音頭」を踊りました。同行した区の担当者は「坂井市の方々が品川音頭を上手に踊れて驚きました」と語ります。

一方、8月27日のとごしぎんざまつりには坂井市から市民約30人が訪れ、近隣町会の方々と一緒に坂井市の「帯のまち流し」を披露し、区民との交流を深めました。

とごしぎんざまつりと坂井市のアンテナショップ



シティプロモーション サミットのバトン

昨年10月26日と27日には、坂井市で全国シティプロモーションサミットが開かれ、品川区をはじめ全国各地から97の自治体に参加しました。全国持ち回りで4回目の開催となるサミットは、坂井市が主催し、品川区が共催しました。

テーマは「シティプロモーションで加速する地方創生」。品川区からは、しながわ水族館での連携事業など坂井市との交流の取り組みを紹介しました。

今年の全国シティプロモーションサミットは、坂井市からバトンを引き継ぎ、品川区の主催で、10月26日と27日に品川区立総合区民会館（きゅりあん）で開催します。



品川区では「わ!しながわ」を合い言葉に、伝統が息づく暮らしと都心の魅力が共存する品川区の素顔をPRする取組を行っている

今回は初めて東京が会場となります。コンセプトは「Connect」まちとひとつをつなぐ体験を考える。事例発表だけでなく、地域が目指す理想の姿、戦略、具体的な手法などについて、改めて整理し考えるきっかけとなることを目指しています。

また、全国シティプロモーションサミットの会場から近いイトーヨーカドー大井町店では10月25日から30日まで、千葉県物産展フェアも開催され、千葉県内の7自治体（千葉市、香取市、大多喜町、野田市、白子町、東金市、木更津市）が参加する予定です。区では26日と27日に開

催される全国シティプロモーションサミットとの相乗効果を期待しています。

触発された坂井市との交流

特別区全国連携プロジェクトが縁となった坂井市との交流事業。これまで交流事業に携わってきた区の職員は、「坂井市は、バイタリティーが違う。郷土愛が強く、まちを良くしよう、他の自治体と仲良くしようというエネルギーがあふれていて触発されました」とも語りました。

品川区はこれまで、「協定」を結んだ神奈川県山北町、山梨県早川町、岩手県宮古市、福島県富岡町など、

**全国シティプロモーションサミット2017
in Shinagawa**

Connect ~まちとひとつをつなぐ体験を考える~

入場無料 (講演・展示ブース)

10/26 (木) 10/27 (金)

11:00~18:30 (10:30開場)
10:00~14:00 (9:30開場)

会場: きゅりあん (品川区立総合区民会館)
アクセス: 大井町駅 徒歩約1分

主催: 品川区
会場: きゅりあん (品川区立総合区民会館)
アクセス: 大井町駅 徒歩約1分

パネルディスカッション 『つなげる』『つなげる』力で、地域を元気に。」
西川太一郎 荒川区長 (特別区長会会長)、坂本憲男 坂井市長、事業構想大学院大学 田中里沙 学長と濱野健 品川区長が登壇し、「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みなどを話し合います。

基調講演 「戦略的広報のすゝめ 一人の仕掛けがまちを動かす」
ローマ法王にお米を献上したことで知られる高野誠鮮さんによる基調講演。

情報交換会 (事前予約制・有料) 日時: 10/26 (木) 18:45 ~ 20:30
各自治体の持つ課題の意見交換や官民連携について交流を深めます。

エクスカーショ (行政視察) (事前予約制・有料) 日時: 10/27 (金) 午後
品川のまちづくりについて現地を実際に視察しながら意見交換を実施します。

A. 施設見学コース B. まち歩きコース
(大井町馬場、しながわ水族館) (天王洲エリヤ、旧東海道、戸越銀座商店街、大崎駅西口/バスターミナル)

お申込はこちら ▶ <https://www.sendenkaigi.com/event/cp-summit/>

様々な自治体との交流を進めてきました。

坂井市との交流は、これまで接点のなかった都市であり、新しい自治体間連携のつながり方だと言えます。

担当者は「協定を結び、形を整えた上での交流ではなく、お互いに行き交うことをじっくり話し合うところから始めるので、お互いの強みを活かせる連携です。これによって、自治体間連携に広がりが出てきて、他の自治体や民間企業、市民同士もつながっていく可能性が広がっています」と語りました。

シティプロモーションに力を入れ、シビックプライドを高めようとしている品川区にとって、坂井市との交流は大きな経験になりました。自分のまちに誇りを持ち、全国にまちの良さを発信していこうという思いは、東京も地方都市も同じです。地方の衰退や人口減少が課題となっている今、10月に開催される全国シティプロモーションサミットで全国の自治体がいっしょに日本を元気にしようというメッセージを、東京・品川から発信することは、これからの全国連携にとって、とても大きな意味を持つはずです。

幕末維新ゆかりの 22都市が連携



今年1月に発行された
幕末維新ガイドブックの改訂版

1867年の「大政奉還」から150年目の節目となる2017年、京都府京都市の呼び掛けで、幕末維新に縁を持つ全国の22都市が連携した「大政奉還150周年記念プロジェクト」が行われています。品川区も土佐藩下屋敷があり、坂本龍馬が黒船来航の折に警護にあたったとされている縁から、このプロジェクトに参画しています。

今年1月に「幕末維新ガイドブック」を発行。6月には改訂版を発行しました。参画都市の幕末維新関連事業、和菓子やお酒の紹介をしています。スタンプラリーに応募した人の中から抽選で参画都市の名産品・オリジナルグッズがプレゼントされます。